

中国における大学入試で日本語を選択するメリットとデメリット

—2022 年遼寧省の結果—

Advantages and Disadvantages of Choosing Japanese in University Entrance Examinations in China

-Results from Liaoning Province, 2022-

韓 帥, 野崎 浩成

Shuai HAN, Hironari NOZAKI

愛知教育大学大学院教育学研究科

Graduate School of Education, Aichi University of Education

愛知教育大学

Aichi University of Education

Email: hanshuai2020@hotmail.com

あらまし : 本稿では、中国の大学入学試験における日本語で受験することのメリットとデメリットを分析する。大学入学試験の成績と進学の両面から日本語選択のメリットとデメリットを説明する。本研究での調査結果に基づいて、学生たちが自分の状況に合わせて合理的に進路を選択できるようサポートする。

キーワード : 中国の大学入試, 外国人日本語学習者, 外国語成績

1. はじめに

ここ数年、中国では英語の代わりに日本語で試験を受ける受験生が増えている。2019年に教育省が発行した「2019年一般高等学校募集業務規定」第17条では、「全国共通試験科目の外国語は英語、ロシア語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語の6言語に分けられ、受験生は異なる言語を選択して試験を受けることができる」と規定された。6つの言語の中で、英語を除いて受験生が最も多く選んだのは日本語である。

2016年から、日本語で受験する受験生の数は毎年急速に増加している。2018年から2020年の間には23,000人から100,000人へと、毎年100%を超えるペースで増えている。2021年の大学入試データ統計では、全国の日本語受験者はすでに20万人前後に達し、中でも広東省が最も多く、49,000人に達した。

日本語を選択すると、英語に比べて外国語の成績が上がると思っている学生がいるが、実際には外国語の成績が下がっているため、進学や就職に困難を感じている。学生の日本語学習に対する具体的な状況が不明なため、日本語学習の積極性に影響を与え、成績を低下させる。日本語を選択することが将来の発展にどのような影響を及ぼすかが分からずに、自分の将来に対する計画性がない。ただ単に成績を上げるために日本語の試験を選択した。その結果、進学や就職が困難になった。したがって、学生たちに大学入試で日本語を選択するメリットとデメリットを理解し、自分のニーズと実際の状況に合わせて正しく選択してもらうために、日本語の大学入試のメリットとデメリットについての調査と分析の必要がある。

2. 2022年大学入試の外国語の成績調査

2.1 調査対象

遼寧省で日本語を開設している高校や塾の日本語受験生の成績データを集計した。具体的には、外国語学校、朝鮮族第二中学、飛鳥学堂私塾などです。

2.2 調査方法

調査方法はインターネット調査である。2022年度大学入学試験を受験した受験生は、インターネットで、大学入学試験の問題と照らし合わせながら、もう一度自分の解答と大学入学試験の外国語成績を入力する。

2.3 2022年度の試験問題の難易度の分析結果

最初に、正答率を計算して、試験問題の難易度分析を行う。難易度は、問題の難易度、つまり、1つ

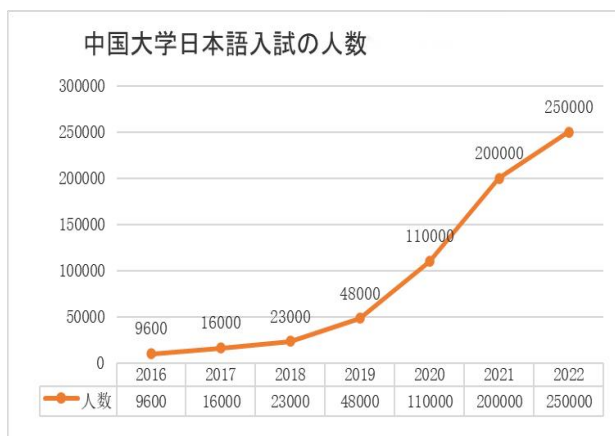


図1 中国の大学入試における日本語入試受験者数

の問題でどれだけ失点したかを表す。試験の難易度係数 P の計算式は次の通りである。

$$P=1-(\text{平均点} \div \text{満点})$$

難易度係数が低いほど問題は易くなる。

計算結果：

日本語難易度係数 $P=0.352$

英語難易度係数 $P=0.4$

よって、英語の統計難易度係数は日本語に比べて 0.048 高い。

このため 2020 年の大学入試作文いのがの問題では、日本語のほうが英語よりも難易度が低く、生徒が点数を取りやすい可能性がある。

3. 進路状況調査分析

3. 1. 国内進学の専攻制限調査

2022 年の辽宁省学生募集計画において、全体で 18,286 の専攻が存在する。

日本語学生が応募できない専攻は、557 種類である。その中で、英語の受験生だけに受験できる専攻は、英語/ビジネス英語、翻訳、その他の言語専攻等、520 種類にものぼる。

特に注意しなければならないことは、その中に日本語科が 3 つ含まれているが、日本語受験生は受験できない。英語科受験生のみを受け入れ、大学で日本語はゼロから学ぶことになる。そのため、日本語の基礎がある学生は応募できない。

その他の専攻 (37 種類) は、一部は中外合作の学校運営や外国の分校の学生募集 (厦門マレーシア分校) で英語の授業が行われるため、英語の受験生に限定されている。例えば、国際金融学、国際会計学、国際経済と貿易などがある。最後に、中国防衛システム (防空システム) の分野では、卒業後に直接就職する分野として、ネットワーク工学、電気工学と自動化技術、土木工学、建築学、経営学等も含まれている。

日本語のみで受験可能な学科は日本語 (師範系) のみである。

3. 2 留学調査

調査方法：インターネットアンケート調査

遼寧省の日本語受験生 (高校生・大学生) を対象としたオンラインアンケートを実施し、進学選択、留学意向などについて質問した。遼寧省では、地域ごとにバランスよくサンプリングを行った。回答者数は 300 人であった。

調査によれば、日本語で受験した学生は全員が進学を果たしている。また、日本語受験生の留学状況に関する調査も行った。

国内進学者は 238 人 (78%) であり、そのうち 60 人は日本語関連以外の専攻を選択している。

留学生は 62 人 (22%) である。全員の留学先国は日本である。英語学生の留学率は地域によって大幅に異なり、最も高い学校では 30%、全国平均では 8.5% である。

「語学学校」 (日本語学習を目的とした) は 48 人、「長期留学」 (学位取得や長期研究を目的としたもの) は 13 人、「短期留学」 (学位取得を目的としない 1 年間の短期滞在) は 6 人、であった。

4. 結論とまとめ

英語学生のみが応募可能な専攻は全体の 3.04% に過ぎず、その中には外国語関連学科が多く含まれており、一部は中外合作や英語で授業を行う学科である。また、特殊な国防・軍事関連の専攻分野も存在する。外国語関連学科を除けば、受験に大きな影響はないと言える。外国語関連学科を受験する際は、事前に応募する専攻が応募可能かどうかを確認する必要がある。

しかしながら、日本語を学ぶ受験生の留学選択肢は限られており、英語の基礎が弱い場合、日本以外の国を留学先として選択することは難しいという現実がある。それに対し、英語を学ぶ受験生は、多くの国で留学することができ、選択肢が広がっている。日本語を選択する学生は英語力が不足しているため、英語成績が必要な大学への出願が難しくなる可能性がある。

今後は、本研究で得られた調査結果を参考にして、学生たちが自分の状況に合わせて合理的に進路を選択できるようサポートする必要があると考える。

参考文献

- (1) 松見法男・費曉東：中国語を母語とする初級日本語学習者における日本語漢字単語の学習ストラテジー。広島大学大学院教育学研究科紀要，第二部，文化教育開発関連領域，第 65 号，pp.187-191 (2016)
- (2) 楠山研 (2005) 「中国における大学入試改革の動向：地方・大学への権限委譲に関する一考察」『京都大学大学院教育学研究科紀要 51』，pp.128-141
- (3) 大冢豊 (2007) 『中国大学入試研究—変貌する国家の人材選抜』東京東信堂 (2007.06.01)
- (4) 日本国際交流基金 (2021.11.24) 「海外日本語教育機関調査」，全世界の「日本語教育機関数」「日本語教師数」「日本語学習者数」結果，<https://www.jpfi.go.jp/j/about/press/2022/dl/2022-023.pdf> (参照日 2023.07.21)
- (5) 遼寧省学生募集考試の窓 (2020.06) 「2022 年遼寧省普通高校学生募集考試成績統計表」www.inzaks.com (参照日 2023.08.11)
- (6) 中華人民共和國教育部《普通高校日本語課程標準》<http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/200303/W020200401347863199102.pdf> (参照日 2023.10.1) と《普通高校英語課程標準》(2017)<http://www.moe.gov.cn/srcsite/A26/s8001/200303/W020200401347863865888.pdf> (参照日 2023.08.11) (参照日 2023.10.1)